

外国人研究者	套図格（トクタホ）		
Foreign Researcher	Tao Tu Ge		
受入研究者	野元弘幸	職名	教授
Research Advisor	Hiroyuki Nomoto	Position	Professor
受入研究科	人文科学研究科		
Graduate School/Department	Graduate School of Humanities		

＜外国人研究者プロフィール/Profile＞

国籍	中華人民共和国
Nationality	China
所属機関	赤峰学院
Affiliation	Chifeng University
現在の職名	准教授
Position	Associate Professor
研究期間	2017年7月23日～10月20日
Period of Stay	July 23rd, 2017 - October 20th, 2017
専攻分野	教育学
Major Field	Pedagogy



日本の学生に授業する研究者

＜外国人研究者からの報告/Foreign Researcher Report＞

①研究課題 / Theme of Research

申請者の今回の来日時の研究テーマは「在日中国籍モンゴル人留学生の異文化接触と民族的アイデンティティに関する研究」である。申請者の博士論文のテーマは「在日中国籍モンゴル人留学生の民族的アイデンティティの変容と教育」で、近年日本の教育機関で学ぶ中国籍留学生のうち、少数民族出身の留学生が増加・多様化しつつあることに着目して、中国籍モンゴル人留学生の教育の有り様、とりわけその民族的アイデンティティの問題の解明を行った。この博論の研究を発展させて、今回は留学前後の異文化接触・適応問題の現状とその要因を明らかにすると同時に、歴史を遡って、戦時中に来日した留学生へのインタビューと関連の資料収集を行った。

②研究概要 / Outline of Research

申請者は、首都大学東京大学院・人文科学研究科博士前期・後期課程において、現代中国が直面する教育問題について、日本の教育学研究成果に学びながら研究を行った。その成果を博士論文「中国籍モンゴル人留学生の民族的アイデンティティの変容と教育」にまとめている。当該博士論文は、当時、日本国内の教育機関で学ぶ中国籍モンゴル人留学生を対象に丁寧なインタビューを行い、質の高いデータをもとに、その民族的アイデンティティの変容の過程についての特徴を明らかにしたものである。

今回取り組んだ「在日中国籍モンゴル人留学生の異文化接触と民族的アイデンティティに関する研究」は、そうした今日的にも重要な留学生教育研究をさらに発展させるもので、来日前後の青年の異文化接触がどのような民族的アイデンティティの変容を引き起こしているのかを分析するもので、日本の教育学研究における多文化・多民族研究にとって極めて意義深い研究の視野を提供できる。

③研究成果 / Results of Research

本研究では、まず先行研究を検討の上インタビュー調査を行い、その分析結果をもとに在日中国籍モンゴル人留学生の日本留学前後における異文化適応問題について考察を行った。考察の結果を分析した第一本の論文「在日中国籍モンゴル人留学生の異文化適応ーモンゴル人留学生の語りを中心にー」は『東アジア社会教育研究』（2017. 9）に採用された。本論文では中国籍モンゴル人留学生の日本留学をきっかけに起こる異文化適応問題には、様々な要因が絡み合っている上、彼らの日本留学は単なる勉強とか、就職が目的ではなく、複数の要因が含まれていることが明らかにされた。また、その結果をもとに日中両国における留学制度や教育のあり方を改善するよう提案した。次に、「在日中国籍モンゴル人留学生の異文化接触と民族的アイデンティティの変容」に関する論文は、日本の学会誌に投稿する準備が整っている。さらに、今回は日本の大学生や院生に「中国少数民族の現状と教育について」話す機会を得た。他、戦時中に日本へ留学してきたモンゴル人留学生へのインタビュー調査を実現する等貴重な研究成果を得た。

④今後の計画 / Further Research Plan

今後は、引き続き、野元弘幸教授と以下のような研究を共同に進めていくことを企画している。1. 「在日中国籍少数民族留学生の民族的アイデンティティの変容と教育」の発展という視点から、研究を継続し、重点的に分析を行う。なお、従来のモンゴル族や朝鮮族だけではなく、日本では新たに増加しつつあるチベット族やウイグル族、苗族など南方・西方の少数民族学生や日本における少数民族であるアイヌ民族も視野に入れた研究を行う。2. 中国国内におけるモンゴル民族とその他少数民族の民族的アイデンティティに関する研究成果の検討。最近、中国政府の少数民族教育政策と少数民族の教育研究成果を踏まえ、こうした国家政策のもとにおける民族教育のあり方を検討するとともに、少数民族の民族的アイデンティティに関する研究成果をも検討する予定である。3. 中国籍モンゴル人若者たちの日本での定住と民族的アイデンティティの変容。近年、中国籍モンゴル人若者たちが日本留学を目的に日本へ移動し、留学後は帰国せず日本で定住する傾向が多く見られ始めている。彼らのこうした日本への移動と定住する動きの実態と今後の展望について追究する。

⑤東京と海外諸都市との相互理解・友好親善関係の推進についての計画 / Further Plan of Contribution of Strength of Mutual Understanding/Friendship Between Tokyo and International cities

申請者は、日本留学当初から日本で行われて来た国際交流に積極的に参加してきた。その後、同胞の留学生たちと「東アジア留学生交流協会」を立ち上げ、故郷の民族教育への支援を行ってきた。その関係で日本の大学の教員や研究者以外にもたくさんの市民活動家たちと知り合い、交流の仲間となった。今後は、その人脈と身に付けた知恵を礎に単なる研究交流だけではなく、教育と文化等幅広い分野において活動できることを考えている。また、すでに野元弘幸教授と話しを進めている首都大学東京と赤峰学院との交流協定を結ぶ話し合いを具体化させる考えである。

<受入研究者からの報告/Research Advisor Report>

①研究課題 / Theme of Research

トクタホ氏の今回の来日は、博士論文「在日中国籍モンゴル人留学生の民族的アイデンティティの変容と教育」の研究成果をもとに、さらに発展させて、異文化接触・異文化適応に伴う民族的アイデンティティの変容を捉えようとするもので、研究テーマは「在日中国籍モンゴル人留学生の異文化接触と民族的アイデンティティに関する研究」である。引き続き、日本の大学で学ぶ中国籍少数民族留学生は多く、チベット族、ウイグル族、ミャオ族などさらに多様化しており、少数民族留学生をどのように受け入れるかは、学術的にもより一層重要な課題となりつつある。これまで中国国内で研究職に従事しながらも交流を維持してきた在日の少数民族留学生ネットワークを通じて、今回滞在でも、多くの留学生に丁寧なインタビューを行って資料収集を行った。

②研究概要 / Outline of Research

異文化接触・異文化適応に伴う民族的アイデンティティの形成・変容に注目する研究であることから、博論執筆の際と同様に、少数民族留学生から可能な限り多くのインタビューを実施すること、また、モンゴル人留学生を中心に論文をまとめることになるにしても、今後の少数民族留学生の多様化の実態を踏まえると、少し対象を広げることが望ましいとの助言を行った。また、研究方法について、量的な研究ではなく、質的研究を今後も継続して行い、より丁寧なインタビューを実施していくためには、質的研究法についての見識を深めることが求められるため、滞在中に、研究方法論についても中国で入手が困難な書籍・資料を集めて入手するよう助言した。

さらに、実施に大学院で研究活動を行いながら、課題や困難を抱え留学生の相談にのりながら、実態を把握する研究を行うことも重要である旨指導し、滞在中に、本学少数民族留学生の研究についての具体的なアドバイスを行うよう依頼した。これも今後の研究の発展に活かされると思われる。

③研究成果 / Results of Research

来日前からもっていた研究テーマ、課題意識に加えて、指導に基づく研究方法により丁寧なインタビューを行うことができ、それらはすでに研究ノートの形でまとめられている。とりわけ、戦間期の少数民族留学生の生存者に聞き取りを行うことができ、貴重な証言を得ることができた。これはまだ整理されておらず、今後、しっかりとまとめられることが期待される。質的研究の力量アップにつながる資料の収集も行い、今後の研究力量の向上につながると思われる。

すでに今回の研究成果を踏まえて、日本国内の雑誌等への投稿を試みており、結果が期待される。

④今後の計画 / Further Research Plan

今回の滞在で収集したデータは、かなり質の高いもので、研究成果としてまとめることはもとより、これらをベースにさらに研究を進化させる方向で、引き続き同テーマでの研究を行うようアドバイスをした。今後も、可能であれば定期的に滞日し、データ・資料収集と研究交流を続ける方向性を確認した。また、今回は、本学に在籍している留学生との研究交流を通じて、今後もトクタホ氏からアドバイスを求めたいとの意見が多かった。本学をはじめ、日本の大学院で研究を行う少数民族留学生の研究指導という点でも、一定の成果とそれを通じての研究が可能であると思われる。今後の研究に期待したい。



戦時中に来日した留学生へのインタビュー



大学院ゼミにて



在日モンゴル人留学生の交流会に参加



日本の大学生に授業する様子